



第二十三期全曹青執行部

会長年頭挨拶

第二十三期会長 原^{はら}知昭^{ちしょう}

新年を迎え謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。
旧年中は全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）の活動にご厚情賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

令和二年は世界各地そして日本国内においても新型コロナウイルスの感染が拡がり、社会の様相が一変した一年でした。非常事態宣言が発令され、自粛要請のもと様ざまな制限がかかり、経済は低迷し、不安や苛立ちから人びとのところに大きな影を落としました。今なお先の見通せない状況に言い知れぬ不安に世界中が包まれているように感じます。

全曹青の活動においても、対面で執り行う会議はすべて中止とし、オンライン上で開催いたしました。各委員会運営においても事業にに応じて中止、縮小などの措置をとらざるを得ない状況でした。

しかしながら、そのような状況においてもオンライン



島根県・宗見寺（原知昭住職）で行われた「過疎問題」フィールドワーク

ン会議ツールや動画投稿サイト、SNSなどを駆使して出来る形での事業を進めてまいりました。今期第二十三期において本会事業として進めてきた「過疎問題」に関しては、オンライン研修会の形で「明日をひらく寺院創生講座」と題し、講師に一般社団法人お寺の未来代表理事・井出悦郎氏をお招きし、全六回での開催を執り行うことができました。各委員会においても、様々な動画を作成し、「stay home」により自宅にいながら坐禅や写経などが体験できるようご提案をしてまいりました。

振り返りますと、私が全曹青に参加をさせていただいたのは第十八期（久間泰弘会長）からになります。そして第十八期最後の定期総会を控える三月十一日に東日本大震災が発生しました。全曹青として早急に復興支援活動に入り、第十九期（松岡広也会長）では継続的な復興支援活動と、一周忌・三回忌法要を執り行いました。そして第二十期（櫻井尚孝会長）のとき総合企画委員長の役をいただき、第二十一期（安達瑞樹会長）には事務局長、第二十二期（倉島隆行会長）には副会長と、様々な経験を積みさせていただきまし



毎年福島県・成林寺で開催される東日本大震災慰霊法要・納経風経

全曹青の活動を務めるうち、時には困難な社会情勢に向き合う時があります。東日本大震災、全国で頻発する自然災害、そして新型コロナウイルス感染症拡大。とても一人では立ち向かう事が出来ないような大きな困難であっても、我々には志を同じくする全国青年僧侶の仲間がいます。ともに考え、ともに活動し、ともに想いを分かち合う仲間がいます。全曹青は全国加盟団体を繋ぐ連絡協議体、様々な研鑽、実践を行う事業体として、「全国青年僧侶と「心豊かな社会の形成」を目的に活動してまいります。

今後も、全曹青の活動に変わらぬご指導を賜りますよう伏してお願い申し上げます。



●執筆者プロフィール
第二十三期全曹青会長
原 知昭

いずも曹洞宗青年会所属
第十八期より全曹青に参加。第二十期総合
企画委員長、第二十一期事務局長、第二十
二期副会長を経て第二十三期会長。全日本
仏教青年会副理事長。島根県宗見寺住職。